



一般社団法人
エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan

2025年度 事業計画書

2025年4月1日～2026年3月31日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

1. 2025年度事業方針(10周年をふまえて)
2. 重点方針概要
3. 分野別計画
 - (1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成
 - (2) 学びと実践を支えるコミュニティの形成・支援
 - (3) 「折れない心を育てるいのちの授業」プロジェクト
 - (4) 社会への発信(研究・出版・メディア・海外連携)
 - (5) 現役世代・将来世代への教育(学生・若年層との協働)
4. 法人運営
 - (1) 体制を整える(組織・人材)
 - (2) 協働を広げる(行政・企業・NPO)
 - (3) 情報をつなぐ(DX・発信)
 - (4) 基盤を支える(資金・ガバナンス)
5. 実施スケジュールと展望

1. 2025年度事業方針(10周年をふまえて)

2025年度、エンドオブライフ・ケア協会は設立10周年という節目を迎えました。

この10年、病や死に限らず、誰もが日々の暮らしの中で他者の苦しみに気づき、支え合う社会をつくることを目指してきました。私たちは「専門的なところのケアをすべての人生のそばに：ユニバーサル・ホスピスマインド」という理念のもと、苦しみを抱える人が少しでも穏やかに生きられる社会を願い、歩みを重ねてきました。

この10年を振り返ると、専門職に限らず、子どもからお年寄りまで、多様な世代の方々が学び、語り、支え合う姿が全国で生まれています。研修や授業、地域の学習会などを通じて出会った方々が、自分の言葉でその思いを語り、次の世代へと受け継いでくださる姿が印象的でした。各地で共に考え、行動してくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

孤独や孤立、分断の影が深まる時代にあっても、人は自分の「支え」に気づくことで、穏やかさや希望を取り戻すことができます。苦しみは特別な人だけのものではなく、誰の人生にも訪れるもの。だからこそ、身近な誰かの苦しみに気づき、「この人はわかってくれる」と感じられる関係を育むことが、社会の温度を変えていくと信じています。

10周年特設サイトでは、これまでの歩みとともに、これからの10年に向けた道のりを紹介しています。そこでは、私たちが大切にしたい未来の姿を「みんなで叶えたい10のこと」としてまとめました。ぜひご覧いただければ幸いです。

2025年度からは、その思いを形にするために、「定着」「共創」「次世代」という3つの軸を掲げます。学びを日常の実践へと「定着」させ、立場や分野を超えて支え合いの文化を「共創」し、そして次の「世代」へと受け継いでいく。その一步一步が、誰かの苦しみに寄り添い、支え合う文化を育てると信じています。

これからも、「すべての人生のそばに」という願いを胸に、皆さまと共に歩んでまいります。

代表理事 小澤 竹俊

みんなで叶えたい10のこと

2024年、エンドオブライフ・ケア協会は設立10周年を迎えました。
これまで多くの皆さまとともに活動が続ける中で、
私たちは「ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに」という理念を、どのように社会へ根づかせていくのかを
改めて考えました。

その対話の中で協会内部で整理したのが、
「みんなで叶えたい10のこと」です。

これは、10周年を節目に私たちが目指したい未来の方向性を
10のテーマとして言語化したものであり、完成形ではありません。

社会のさまざまな立場の方々と対話し、協働しながら、ともに探
求し、実践を通じて形を変えていく“進化する羅針盤”です。

この10のテーマは、2025年度の重点方針である「定着」「共創」
「次世代」を具現化していく上での指針でもあります。

今後はオンラインイベントや研修、地域での実践などを通じて、
一つひとつのテーマを皆さまと共に深めていきます。

～人生の最期までウェルビーイングを実感できる社会の実現に向けて～
専門的なこころのケアをすべての人生のそばに：ユニバーサル・ホスピスマインド

みんなで叶えたい10のこと



2. 重点方針概要

基本方針

ユニバーサル・ホスピスマインドを、学びから日常へ、そして世代と分野を超えた共創へ。
2025年度は、設立10年を経て「支え合いの文化を定着させる」段階に入ります。
そのための重点テーマを、次の3本柱として設定します。

■ 定着(Live the Mindset)

- ユニバーサル・ホスピスマインド(UHM)の理念を「理解する(learn)」ではなく「体現する(live)」段階へ。UHMの理念と実践を、講座・教育・職場研修・地域活動など各領域で定着させる。

■ 共創(Grow Together)

- 行政・企業・教育機関・NPOとの連携を深め、地域全体の支え合い文化を醸成する。

■ 次世代(Pass It On)

- 子ども・若者を中心に、いのちの学びを社会に根づかせる。

3. 分野別計画

(1)人材育成

- ・ 援助者養成講座土日25回、平日夜6回、IH 5回(雲仙、狭山、鈴鹿、豊田、琉大)
- ・ 養成講座の講師育成
- ・ 実践ゼミ・UHM ラボを体系化し、認定制度を再構築

(2)コミュニティ形成・支援

- ・ ファシリテーター間の横連携促進。
- ・ 学習会の地域拠点モデル化。
- ・ 認知症(ともにん)など、特定テーマ型プログラム

(3)OKプロジェクト／ともにん

- ・ OKプロジェクト(小中高・学童・大学連携)の促進
- ・ 自治体連携・普及活動を推進
- ・ 居場所×学生のモデルづくり
- ・ ともにん講師の育成および評価基準整備

(4)社会への発信・研究・国際連携

- ・ 国内外カンファレンスで成果共有
- ・ 海外パートナーとの協働
- ・ Web/SNS発信の体制整備

4. 法人運営

(1)体制を整える(組織・人材)

10周年を機に、各プロジェクトが自律的かつ持続的に運営できるよう再整理し、「担い手の多層化」と「属人化の回避」を両立させる運営体制を整備する。

- 理事会:新理事を含めた新体制。
- ファシリテーター制度の再構築:基礎・応用の二層制へ移行し、国内外での認定・管理方法を統一する可能性を検討。
- 役割分担の明確化:企画・運営・広報などの担当領域における業務継承を容易にする。
- 人材育成・採用:期間限定スタッフ・プロボノ・学生インターンを含む新たな人材登用。
- 内部コミュニケーション:Slack等を等を活用し、チーム間の透明性と共有スピードを高める。

(2)協働を広げる(行政・企業・NPO)

「みんなで叶えたい10のこと」をはじめ、志同じくする外部パートナーと協働し、課題ごとに専門性を持つ団体と連携して実践を広げる。

- 行政連携:孤独・孤立対策、地域共生社会推進のモデル事業化(内閣府)。
- 企業連携:ボランティア／プロボノ協働を深化させ、社内研修へ展開。
- NPO連携:学習支援・ケア・地域づくりの現場と連動し、地域に実装。
- 学術機関との協働:大学・研究機関と協働し、教育効果や社会的インパクトのエビデンスを蓄積。

4. 法人運営

(3)情報をつなぐ(DX・発信)

情報発信と業務効率化を一体的に進め、全国の学びを共有できる基盤を整える。

- 基幹システム改修:10年経過したシステムの老朽化やセキュリティへの対応をはじめ、グローバル化を視野に入れ、システムを拡張する。
- SNS運用のチーム体制化:Facebook・Instagramを中心に、発信ルールを整備し、複数メンバーで運用。
- メルマガ自動化:Webサイト更新情報をもとに自動生成する仕組みを試行。

(4)基盤を支える(資金・ガバナンス)

財務の透明性を高めつつ、多様な資金源を確保して事業の持続可能性を高める。

- 寄付:10周年を機に、つながり直しの意味合いも込めて、キャンペーンを実施。
- 助成金・CSR協働:複数年度型助成の獲得を目指し、企業との協働企画を推進。
- 「グッドギビングマーク認証」取得:JCNEの新制度認証を取得し、組織運営の透明性と社会的信頼性を高める。

5. 実施スケジュールと展望

月	主な予定	補足
4月	設立10周年シンポジウム(横浜・オンライン)	
6月	新規プロジェクトキックオフ(ALIVE/ジョンソン・エンド・ジョンソン コミュニティヘルスケアプログラム(ともにん)/内閣府孤独孤立対策に関わるNPO調査事業)	※ともにん:認知症とともに生きるいのちの授業
8~10月	いのちの授業 海外講師育成(オンライン・イギリス)	
12月	ファンドレイジングキャンペーン実施(寄付月間)	
1月	ともにん講師育成・認定	
2月	内閣府事業成果報告	
3月	次年度準備	

2025年度は、協会設立10周年を機に整理した「10のこと」を土台に、国内外の実践者とともに“学び合いの文化”を広げていく初年度である。社会の多様な現場においてユニバーサル・ホスピスマインドが息づき、誰もがWell-beingを実感できる社会の実現に向けて歩みを進める。

0 歳から 100 歳まで、誰もがどこでも平等に、 答えのないこのころの問題に向き合えるように。

一部の人が一部の人にしか行えない専門的なケアではなく、
住んでいる場所、所得、年齢にかかわらず、
誰もが、大切な人や自分のこのころのケアができるように。

わたしたちは「ユニバーサル・ホスピスマインド」を広めています。

それは、死と向き合うホスピスの現場で培われた、穏やかなこのころのはぐくみ方。

たとえ死を目の前にしても、穏やかでいられる。
そんなユニバーサル・ホスピスマインドを
人生のあらゆる場面で持つことができれば。

学校、子育て、介護、仕事、人間関係。
答えのない困難への、感じ方が変わる。受け取り方が変わる。
それは、大切な人と自分が、
限られた時間でも自分らしく過ごすための実践的な方法。



専門的なこのころのケアを、すべての人生のそばに。



一般社団法人 エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan